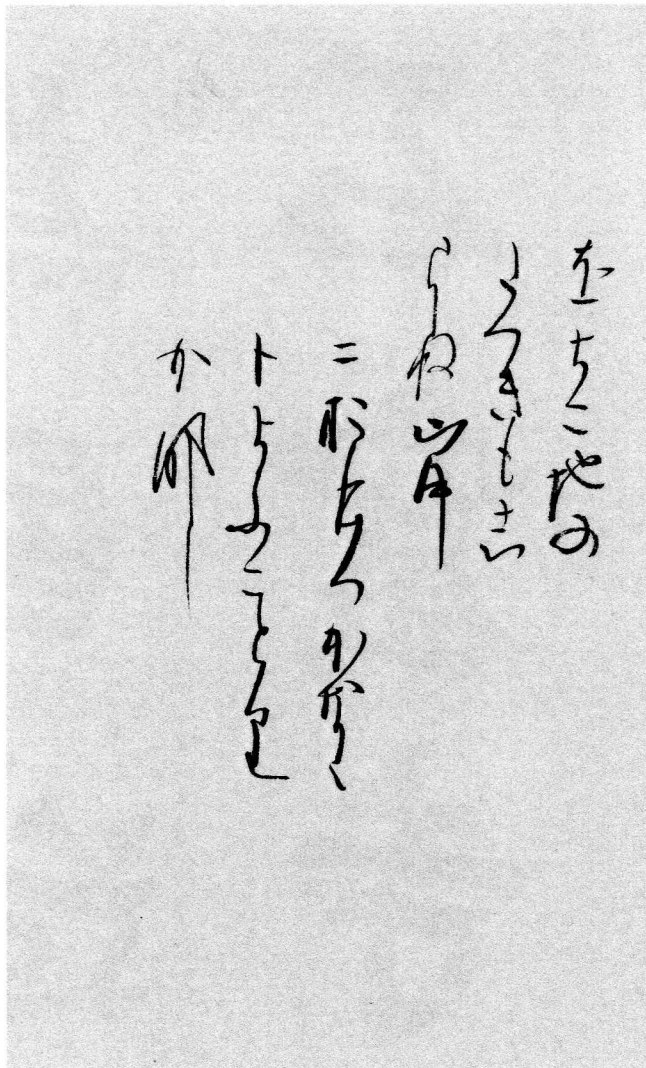


中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力(十一)
—三十六歌仙—

おちこちの たつきもしらぬ 山中におぼつかなくも 呼ぶ小鳥かな

猿丸大夫

(猿丸大夫)
生没年不明。「猿丸」は名、大夫とは五位以上の官位を得ている者の称。実在を疑う向きもある。



〈字母〉

をちこ地の
多つきも志
らぬ山中
二於本つかなく
もよふこと里
か那

中村素堂先生の書 藤田彩緒先生提供

〈歌意〉

「あちらを見ても、こちらを見ても、そこがどこであるのか知るでだてもない山の中で、たよりなげにも鳴く呼ぶ小鳥よ。」この歌は、『古今和歌集』春の歌に「よみ人しらず」として載っていますが、猿丸大夫の名がつけられています。

段差をつけた二つの長方形で書かれ、いずれも行の頭と尻の位置をきれいに揃えて書かれています。

(中村青藍)